

第61回 全国公立学校教頭会研究大会 滋賀大会に参加して

青森市立浪打小学校 森山 浩平

研究主題 「豊かな人間性と創造性を育み未来を拓く学校教育」

キーワード 〈自主・協働・創造〉

サブテーマ 「身近な環境との関わりを通じ 持続可能な社会の担い手となる子供の育成」

期 日 令和元年7月31日(水)・8月1日(木)・2日(金)

○1日目(びわ湖大津プリンスホテル)

【シンポジウム】

テーマ 「豊かな人間性と創造性を育み未来を拓く学校教育」

コーディネーター 小林 圭介氏(滋賀県立大学名誉教授)

シンポジスト 勝山 浩二氏(一般財団法人教職員障害福祉財団専務理事・事務局長、東京学芸大学顧問)

今関 信子氏(児童文学作家)

小林 徹氏(オプテックスグループ株式会社 代表取締役会長兼 CEO)

勝山氏は「将来に向けた体験することの大切さ・効果」について、今関氏は「多様な体験を表現する工夫」について、小林氏は「自然体験の大切さと学習機会の提供」について、シンポジストそれぞれの立場から述べられた。三者とも幼少期の体験の必要性・大切さを話されたが、その中で特に印象深かったのは、学校では子供たちが体験する様々な活動を行っているが、実は親世代の体験活動も必要であり、親子での体験活動の機会を増やすべきだということである。親子で何かをする体験を学校だけでなく、地域や関係機関と連携しながらその機会を作っていくこと、それが教頭としての役割の一つではないかと考えさせられた。

○2日目(琵琶湖ホテル)

【分科会】

課題名 開催地の創意を生かした課題

・提言テーマ①「環境に主体的に関わる力を育むフローティングスクール学習」

～びわ湖や郷土について学び、考え、伝え合い、びわ湖と自分のつながりを見つめる子の育成を目指して～

講師 小野澤 稔香氏 滋賀県立びわ湖フローティングスクール所長

・提言テーマ②「ヨシいけドンドン作戦による琵琶湖の環境保全活動と環境教育」

講師 田井中 文彦氏 公益財団法人淡海環境保全財団専門員

小野澤・田井中両氏から、滋賀県で行っている環境教育や環境保全活動についてお話があった。琵琶湖をステージとした「びわ湖フローティングスクール」や「よし保全ボランティア活動」のお話は大変興味深いものであった。特に昭和58年から継続している、滋賀県全小学5年生が学習船「うみのこ」で体験する2泊3日の宿泊学習は、滋賀県民の環境保全に対する意識の高さを培うための貴重な活動であることがわかった。県全体としてこのような教育活動に取り組んでいることは大変素晴らしいことだと思う。

○3日目(びわ湖大津プリンスホテル)

【記念公演】

講師 今森 光彦氏（写真家）

演題 「琵琶湖水系の美しい自然」

今森氏が撮影した里山の美しい写真をもとに、琵琶湖水系の自然環境とそこに暮らす人々の生活や風習との素晴らしい関係についてお話しされた。また、今森氏が幼少期に体験した、里山での豊かな遊びのお話は、私自身の体験とも重なり大変楽しく興味深いものだった。「環境を守るためには子供の頃の自然体験から得たセンスが必要。だからこそ少年期の自然体験をさせたい」と述べられた。

3日間の研修を通して、自校にとって、子供とか関わらせるべき身近な環境とはどんなものか、どのようにして子供一人一人にその現状や課題を捉えさせるか、そして持続可能な社会の担い手としての基礎を培うために行うべき教頭としての役割は何かということ考えることができた。